

第3種郵便物認可

カルチャー WEST



長崎OMURA室内合奏団

長崎県大村市を拠点に活動する長崎OMURA室内合奏団が9月1日、福岡市内で初の演奏会を開く。地元密着型の小ぶりの室内アンサンブルながら、バイオリニスト松原勝也さんの指導のもとで表現力を磨いてきた。創立15周年の今年、新たな飛躍へ打って出る。合奏団は長崎県ゆかりのメンバ

結成15年 初の福岡公演

長崎OMURA室内合奏団が9月

一三十数人でつくる室内オーケ。定期演奏会のほか地元の小学生を対象にしたスクールコンサートや親子コンサートなど、「我が町のオーケストラ」として地元密着の演奏活動を続ける。

一方で、チェロのアントニオ・メネセスやビオラの今井信子ら世界的演奏家とも協演。2005年には韓国で初の海外公演、15年には紀尾井ホールで東京進出を果たした。今回の福岡公演でさらなる知名度アップをはかる。

結成は03年。声楽出身で、米国でミュージカル俳優としても活躍した大村出身の芸術監督、村嶋寿深子さんが地元の文化施設「シーハットおおむら」の館長に就任したのを機に立ち上げた。「欧州には各地にオーケストラがある。演奏家が大村でも仕事できるプロのオーケをつくりたい」と、かつて東京のカザルスホールで企画制作に携わったノウハウや人脈を注ぎ込

んで育ててきた。

常任の指揮者を置かないスタイルで、09年からはコンサートマスターを兼ねてアーティストック・アドバイザーに、クライスラー国際コンクールなどで入賞経験を持つ東京芸大教授の松原さんを迎え、「九州のプロオーケには大村もあるよね、と言われるような」（村嶋さん）、地方に愛されるプロの楽団をめざしている。

当日の演目は松原さんが弦楽合奏版に編曲したバッハのプレリュードとフーガハ短調、柳瀬省太（ビオラ）との協演でモーツァルトのバイオリンとビオラのための協奏交響曲、そしてベートーベンの交響曲第3番「英雄」だ。

FFGホールで午後2時開演。前売りは大人3500円、学生千円（当日はいずれも500円増し）。問い合わせは合奏団（0957・47・6537）。

（編集委員・中村俊介）